令和8年度通常総会

同窓生と秋田のつながりを強く



秋田高校同窓会は、6月21日、秋田キャッスルホテルで令和8年度通常総会を開催。同窓生や教職員ら129人が出席した。

銭谷眞美会長は「同窓会の創立111周年、高校授業料無償化の実現で、学費の面で公立私立の区別なく通えることになった。一方で、統合、廃校、定員の縮減が予想されており、教育の前途は厳しい時代を迎える。戦後の経済成長、豊かな国の背景には教育の普及がある。同窓生と秋田のつながりを強くし、さらに会員の親睦、母校の応援を強くして郷土の創生に資する。経済的な豊かさでなく、一人一人の心の豊かさが必要。心豊かな国を作ろう」と挨拶。

庫山徹校長は、6年目となる生徒のアメリカ研修事業・北雄の翼、同窓会からの支援に感謝するとともに、運動部や文化部等県大会、全国大会での活躍を報告。「少子化が進む中、伝統を引き継いで、変化に対応していかなければならない。県内外から秋田高校で学びたいという、目標となる学校になれるようにしたい」と述べた。

続いて議事に移り、同窓会事務局及び各常置委員会・特別委員会から前年度の決算・事業及び令和8年度の事業計画・予算案が報告され、原案通り承認した。

□企画委員会
教育振興基金の充実、在校生研修事業支援、秋高祭でホームカミングデーの開催

□財政委員会
会費納入方法の多様化対策
口座自動振替やスマホ決済アプリの利用とオンライン納付の利用

□広報委員会
新体制　全員新任・輪番制

□名簿委員会
会員情報管理システム更新
名簿関係機能の整備、名簿未判明者の減少に努める

□ホームページ委員会
HPから年会費徴収オンライン決済システムの導入

□郷土創生委員会
学食の利用促進策の検討と実行、新プロジェクト立案

この後、参加した会員から、「郷土創生委員会の新しいプロジェクトがあれば教えてほしい」。「会費納入が厳しくなる中、財源への見通しが甘い。一般の理解を得るために、繰越金を増やすべき」との意見があり、それぞれ「OBでファンドを形成し地元の企業を応援するしくみ等を考えている」。（郷土創生委員長）。「会費納入する会員をひとりでも多く増やすよう努力したい。会費納入や予算について忌憚のない意見を財政委員会、事務局へお寄せいただきたい」（事務局長）と説明した。

役員改選で、全員の再任が承認されたほか、事務局から令和10年度まで3年間の顧問・参与、常任理事の委嘱について報告された。

総会後の記念講演は、文部科学省高等教育局参事官、佐藤邦明さん（平成2年卒）が「多文化共生社会と日本人・秋田人～教育の視点から考える～」の演題で講演。



記念講演　佐藤邦明氏（平成２年卒）

佐藤氏は「秋田という地域も教育を通じて大きな転換点を迎えている。多文化共生は特別なことではなく、地域の歴史や文化を理解しながら、外から来る人々と共に社会をつくること」と強調した。

※通常総会の記念講演を同窓会ホームページ「本部からのお知らせ」で全編90分公開しています。

天上 TENJO TENGE 天下

歌を好きになる理由は、歌詞とメロディライン、そして、聴いた当時の出来事であろう。口ずさむうちに、ハッとその歌詞の意味を自らの人生に照らし合わせて驚いたこともある。

入学間もない洗礼。旧制中学バンカラの名残を残す学ラン姿の応援団幹部数名が竹刀を持って教室に現れた。教卓に立ち、怒号を浴びせ、凄みを利かせる。あの校歌練習と応援団の迫力ある指導は戦慄の記憶である。

今回の連載企画執筆者2名が校歌の一節を綴った。人生訓として刻まれていた。校歌は学校の教育哲学を凝縮したもの。明治5年の「学制」から、日本の学校教育に入ってきたのは国や郷土への愛情を育むことを目指したという。

「わが生わが世の天職」「己を修めて世のため尽くす」。この目に見えないものの存在は、誇り高い伝統のひとつだ。同窓生の人生まで左右する無限の輝きを放つ。さて、あの校歌指導はどう受け継がれているのか。